

「思いやりについて」

「思いやり」の「やり」という言葉の語源は古代の日本語感覚に由来しているのだそうです。漢字にすると「遣る（やる）」です。

「遣る」とは、「何かを送る」「相手に対して何かを行う」という意味があります。この古語は、気持ちや行動を相手に向けて伝えることを示しています。例えば「気持ちを遣る」は「相手に届ける。」という意味に、「労りや配慮を遣る」は「相手のために行動する」ことを意味します。

「思いやり」とは、「自分の思いを相手に向けて遣ること」を表しています。つまり、相手への配慮や気遣いを具体的な行動として示すことが語源となります。「思いやり」は相手に伝わるのが大事で、言葉や行動で示すことが必要だということです。

古語でも「思いやり」は、この「遣る」の感覚を基に、「思いを届ける」という意味になります。相手のことを大切に、ただ思うだけではなくその思いを相手のために行動として示すことが「思いやり」という表現に込められています。これは、日本文化における「実際の行動を重視する」という価値観とも一致します。

深い悲しみ、感謝、愛情、希望、後悔など、複雑で抽象的な感情は、ことばにしなければ正確に伝わらないことがあります。「ありがとう」と言葉で伝えなければ、感謝の意味が相手に伝わっていないこともあります。愛情や友情なども具体的な言葉で伝えないと相手はその気持ちに気付かない場合もあります。

人間は、ことばを使わず曖昧な態度で接すると、相手が意図を誤解する場合があります、正確にことばで説明することで誤解を防ぎます。特に異なる文化や価値観を持つ相手に自己の考えを伝えるためには、ことばによる説明が必要です。

人間関係をより深めるためには、非言語的なコミュニケーションだけではなく、自分の気持ちや意図をしっかりと言葉として表現することが重要なのです。

日本人はどちらかというと非言語的なコミュニケーションで「読み取ってほしい」と思うことが多く、直接言葉にすることが苦手な人が多いかもしれません。（私もその一人です。）

家族や親しい友人などを「思いやる」とときには言葉や行動にすることが大事です。身近な家族に「いつもありがとう」や「身体に気をつけてね」と言うことは少し照れ臭いかもしれませんが、それでも勇気を出してやってみると、自分の心が晴れやかになるのがわかりますよ。